

2025 年度 松江保健生協 重点方針の振返り（案）

2025 年度は、「組合員参加」と「経営・事業継続」という二つの大きな課題に向き合いながら、組合員と職員が協同し、地域の健康と暮らしを支える取り組みを推進してきました。

松江保健生協の原点は、1950 年に地域の願いと協同の力で誕生した松江大衆診療所にあります。「医療を受ける権利は誰もが平等である」という理念を受け継ぎ、私たちはすべての活動を「松江保健生協の価値を高める事業」と捉え、今後も組合員と職員が一体となって地域の健康と暮らしを支えていきます。

1. 誰もが健康で居心地よく暮らせるまちづくり

フレイル・オーラルフレイル予防、認知症予防、介護医療院でのパワーリハビリ実施などの活動を推進し、「できるだけ自立して元気に過ごしたい」という地域の声を支えてきました。「だんだんチケットキャンペーン」の取り組みで予防接種や健診等の利用につながりました。20 回目となる健康チャレンジは、6,721 人（大人 5,336 人・キッズ 1,385 人）の参加となりました。

サロンなどの居場所づくりを進め、新たに 9 支部にサロンが誕生（朝酌・古志原東・緑山・八雲西・馬潟・乃木第一・中央・宍道・意東）し、過去最高の 31 支部に到達しました。

組合員活動では外来患者さんへの加入依頼行動を行ったり、西まつばら支部立ち上げ準備を意識した健康講座開催とチラシ配りを行うなど工夫を重ねましたが、組合員ふやし 935 人（目標 1,200 人、前年比▲99 人、期首比▲377 人）、出資金ふやし 1 億 8,978 万円（目標 2 億 3 千万円、前年比▲202 万円）という成果にとどまりました。

組合員数の減少や出資金純減の傾向は続いており、医療福祉生協の 4 課題である、仲間ふやし、出資金ふやし、班づくり・班会開催、担い手づくりの強化が求められています。また、活動の楽しさや、やりがいをさらに高め、若い世代の参加を広げる工夫が必要です。「組合員参加のあり方検討ワーキンググループ」を立ち上げ、組合員と職員が一緒になって未来志向の検討を進めました。

2. 持続可能な事業・経営の追求

経常剰余 1 億 6,057 万円（予算比 41 万円、昨年比 1 億 5,218 円）となり、2 年連続のプラス経常剰余を達成することができましたが、現預金は期首比 340 万円増加（計画 7,000 万円増）にとどまりました。収益が予算比▲4 億 6,116 万円であったことと、出資金の減少（期首比▲3,917 万円）は大きな課題です。

職員確保の困難性によりマンパワー、医療機器、建物などを十分に活用するには至りませんでした。26 年 1 月より、全日本民医連中国四国地方協議会の援助を受けながら、経営課題の「見える化」を整備し、事業所ごとの改善ポイントを明確にしていきます。

患者・利用者数の減少、職員確保の困難性など、外部環境の厳しさは続いています。何を伸ばすかという「選択と集中」の議論をさらに深める必要があります。

3. とともに学ぶ、人づくり

4 週 8 休制に準ずる年間休日 123 日制、定年延長、初任給の見直し、奨学金規程・養成規程の見直しなど、職員が働き続けられる環境整備を進めました。学習会開催などハラスメント防止と心理的安全性の向上に取り組むとともに、就業規則やハラスメント規程の見直しを行いました。これらの整備は、職員確保の課題は依然として深刻であり、採用・育成・定着の総合的な強化が必要なためです。

いのちの章典実践交流、平和学習などを通じ、組合員と職員の相互理解を深めました。「中海清掃」(本庄)や「フードバンク応援バザー」(古志原・城北)など、SDGs を意識した活動を推進しました。さらに「防災学習会」「他生協とのまちづくり交流会」を開催するなど活動の幅を広げました。

4. 平和で公正な社会づくり

日本被団協のノーベル平和賞受賞に確信を持ち、核兵器廃絶と平和学習、そして平和運動をいっそう強めていきました。「私たちの平和宣言」の確認、「九条の碑」を建立、原水爆禁止世界大会・平和行進・被爆ピアノコンサート・第 37 回「戦争体験を語り継ぐ集い」などへ継続して参加し、戦後・被爆 80 年の節目に平和への思いを地域へ発信しました。

フードバンクやこども食堂の支援、無料低額診療の実施、東出雲診療所閉院に伴う通院困難者への送迎支援など、「誰一人取り残さない地域づくり」を進めました。「地域住民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の維持存続への支援を求める請願署名」の活動は、支部での取り組みが大きく広がり、外来患者さんへの呼びかけも含めて 3,870 筆もの署名が寄せられました。地域医療を守りたいという組合員の思いを国政へ確かに届けることができました。

また、「ケアの倫理 Cafe 学習会」を開催し、ジェンダー平等、多様性尊重、人権保障に関する学習と実践を積み重ね、組織の土台をより確かなものにしていきました。

こうした取り組みを通じて、私たちは力強い運動を推進することができました。

総括

2025 年度は、課題解決の真ただ中にありながらも、組合員と職員が協同し、地域の健康と暮らしを支える取り組みを着実に進めることができました。一方で、組合員参加の減少、経営・事業継続、職員確保の困難など、構造的な課題は依然として大きく残されております。

2026 年度に向けては、「組合員参加のあり方再構築」「経営の選択と集中」「人材確保」を柱として、さらなる前進を図っていきます。